

(1)事業の概要等

事業番号	Z0103-2
実施計画事業	
実施計画事業以外の事業	○

令和5年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	広聴事業					担当部			市長公室		
	事業期間	昭和63年度以前	～	令和7年度以降			担当課			広報広聴課		
	小牧市まちづくり推進計画(R1年～R4年)	自治体経営編	基本 施策	1	展開 方向	3	担当係			広報広聴係・情報メディア係		
	予算区分	一般会計	款	2	項	1	目	3	大	4	中	1
	根拠法令・個別計画	—					事業種別			一般事業		
	目的・成果 (何のために、どのような成果を期待するか)	<ul style="list-style-type: none"> ●タウンミーティング、市民の声、パブリックコメント <ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズが多様化・複雑化する中、広く市民からの意見や提案に耳を傾け、市民目線の市政運営を目指し、市民の意見を聴く機会の充実を図る。また、必要に応じて、意見を提出していただいた方に対し、行政の考え方などを示すことで、市民の市政参画の促進を図る。 ●まちづくりスクールミーティング <ul style="list-style-type: none"> ・中学生や高校生が、グループワーク等を通して、「まちづくり」について関心を高めるきっかけづくりとなる取組であり、「自分たち」にできることは何かという視点を取り入れることで、主体的に「まちづくり」に関わる意識を醸成し、社会性を育むことを目的とする。 ●LINEを活用した市民レポートシステム(まちレポこまき)の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・市の管理する道路の陥没など地域の課題について、LINEを活用して市民から情報提供していただくシステムを構築し、市民の市政参加促進を図る。 ●(実計) 自動応答システム(こまき山コンシェルジュ)導入 <ul style="list-style-type: none"> ・人工知能(AI)を活用した自動応答システム(こまき山コンシェルジュ)を導入し、市民が24時間365日、いつでも気軽に問合せができる環境をつくり、市民サービスの向上を図る。 										
	対象 (何・誰を対象に)	市民(在住、在勤、在学)										
	内容・手段 (目的達成のためにどのような事業を実施したか)	<ul style="list-style-type: none"> ●タウンミーティング、まちづくりスクールミーティング <ul style="list-style-type: none"> ・市長が、直接市民に市政報告を行い、市民からの意見や質問に答えることで、市政への理解を深めるとともに、市民と行政の協働によるまちづくりの促進を図る。 ・市政報告のほか、特定のテーマによる参加者のターゲットを絞った形や、中学生や高校生のスクールミーティングを含め、様々なテーマや手法を取り入れながら、実施している。 ◆タウンミーティング 参加者:延べ788人(市内4箇所5回開催) ◆中学生スクールミーティング 参加者:20人(小牧中、北里中、応時中) ◆高校生スクールミーティング 参加者:13人(小牧南高) ●市民の声 <ul style="list-style-type: none"> ・市政への意見、提案を常時受け付け、全ての意見を市長へ届けることで、市政運営の参考としている。 ・提出方法(市HP入力フォーム、専用封筒、専用FAX、投書箱)を複数設けることで、多様化する市民ニーズへ対応している。 ◆509件(市内公共施設23箇所に意見提出用紙、提出用封筒を設置) ●パブリックコメント <ul style="list-style-type: none"> ・市民生活に広く影響を及ぼす市の基本的な施策を定める計画や重要方針の策定や条例制定等を行う際に、市の意思決定過程において計画等の案を公表し、広く意見を求め、提出された意見に対する市の考え方を明らかにして、最終的な意思決定を行う。 ◆5件(意見提出数6件) ●LINEを活用した市民レポートシステム(まちレポこまき)の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・市公式LINEを利用して市の管理する道路の陥没など地域の課題について、手軽に情報提供していただき市民の市政参加促進を図る。 ◆71件(令和4年度受理件数) ●(実計) 自動応答システム導入(こまき山コンシェルジュ) (1,080千円) <ul style="list-style-type: none"> ・自動応答システムで回答(こまき山コンシェルジュ)できる項目を充実しつつ、質問に対する回答の精度を高める。 ◆2,482件(令和4年度末回答できる項目数) 										
	受益者負担	無										

(2) 事業費

事業費	項目		単位等	R1	R2	R3	R4	R5	
	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	587	756	582	1,303
				国・県支出金	千円	—	—	—	—
				その他	千円	—	—	—	—
			計(A)	千円	587	756	582	1,303	
		対前年比	%	—	128.7%	76.9%	223.8%		
	予算額		千円	2,158	1,126	1,241	1,670	1,711	
	人件費	正規職員		人	2.00	2.00	1.00	1.00	
		正規職員(平均賃金)		千円	14,972	14,972	7,486	7,486	
		その他職員		人					
その他職員(時給×時間)		千円							
計(B)		千円	14,972	14,972	7,486	7,486			
事業費合計(C=A+B)			千円	15,559	15,728	8,068	8,789		

(3) 業績

展開方向における指標の推移			基本施策	1	展開方向	3	
指標名	単位	方向性	基準値	R2	R3	R4	R5
1							
2							
3							

指標	指標ほか		単位	R1	R2	R3	R4	R5	
	成果指標	市民レポートシステムを知っている市民の割合	%	目標	—	—	—	—	—
				実績	6.3	9.9	31.8	未	
	活動指標	自動応答システム回答の満足度	%	目標	—	—	—	—	—
				実績	—	—	—	66.3	
	活動指標	自動応答システム回答項目数(年度末)	件	目標	—	—	—	—	—
				実績	-	-	176	2,482	
	単事業あたり	受益者数(a)		人	—	—	—	—	
		受益者あたり事業費(=C/a)		円	—	—	—	—	

(4) 事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの			
	事業の達成状況と課題	<ul style="list-style-type: none"> 市民の声やパブリックコメントについては、特に問題なく制度として定着し、市民に浸透している。 市民レポートシステム(まちレポこまき)の見直しを令和4年度に行い操作性の向上を行った。 自動応答システム(こまき山コンシェルジュ)は、令和4年度に愛知県が共同で調達したシステムでの運用を開始し利便性の向上を行った。 より多くの方がシステムを利用することができるよう、スマートフォン等のデジタル機器の使い方講座を充実させる必要がある。 				
	今後の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 広聴事業においては、タウンミーティングや市民の声、パブリックコメントに加え、令和元年度からデジタルを活用した新たな広聴事業としてスタートした市民レポートシステム(まちレポこまき)、自動応答システム(こまき山コンシェルジュ)などを継続し、多様化・複雑化する市民ニーズを市政運営に反映できるよう努めていく。 				
事務事業評価による額	千円	節	細節	細々節		